

		NPO法人 赤煉瓦倶楽部舞鶴 会報	
		発行人/理事長 馬場 英男	
		〒625-0036 舞鶴市浜 247 番地 (3階)	
		TEL/090-3281-7539 FAX/0773-63-9764	
		E-mail brick@iris.eonet.ne.jp	
<b>特定非営利活動法人 赤煉瓦倶楽部舞鶴</b>			
会報93号 平成27年8月1日			
「NPO法人赤煉瓦倶楽部舞鶴」ホームページ <a href="http://www.redbrick.jp/">http://www.redbrick.jp/</a>			

目次

1 平成27年度通常総会 事業・会計報告	事務局	4 連載『我が国の近代土木遺産』	こいけりか氏
2 平成27年度事業 見学・視察会及び舞鶴大会	事務局	5 「先人の墓碑を参拝(その2)」	小野 章氏
3 連載『舞鶴市西地区—その1』	日向 進氏	6 その他 ・平成27年度会費納入について	・編集後記

**1. 平成27年度通常総会 事業・会計報告** 事務局

平成27年6月7日、事務局において、平成27年度NPO法人赤煉瓦倶楽部舞鶴の通常総会を開催しました。

以下、5議案を審議し全員異議なく承認・選任されました。その概要を報告します。

第1号議案 平成26年度事業報告 (会報で主な事業は報告済みのため省略)

第2号議案 平成26年度決算報告 以下の通りです。

科目	金額(円)	備考
1 会費収入	96,000	個人会員48名
2 事業収入	373,857	市内見学・市外視察会費、廿日の市ほか
3 寄付金等収入	519,627	助成金、寄付金、募金
4 雑収入	76,140	受取利息、消費税還付
当期収入合計(A)	1,065,624	(内、赤煉瓦保存基金 295)
前期繰越正味財産額	3,516,270	(内、赤煉瓦保存基金 1,063,972)
収入合計(B)	4,581,894	(内、赤煉瓦保存基金 1,064,267)

科目	金額(円)	備考
1 事業費	501,407	与保水源地見学、岡山市大宮観音旅行、丸山再生ほか
2 管理費	881,033	旅費交通費、会報費、通信費ほか
3 法人税・住民税	0	
—	—	—
当期支出合計(C)	1,382,440	(内、赤煉瓦保存基金 58)
当期支出差額(A)	-316,816	(内、赤煉瓦保存基金 237)
次期繰越正味財産	3,199,454	(内、赤煉瓦保存基金 1,064,209)

第3号議案 平成27年度事業計画

平成27年度も引き続き、法人の目的を達成するため、まちづくりの推進を図る事業及び学術、文化、芸術を図る活動を行うこととし、主に以下の事業を実施する事とした。

- ① 市内赤煉瓦建造物の見学会 (予定見学先は、建部山砲台跡) 11月1日(日) 詳細は未定
- ② 市外の近代化産業遺産視察旅行 (視察先は、奈良市) 8月20日(木)
- ③ 旧丸山小学校保存再生プロジェクト
- ④ 赤煉瓦ネットワーク舞鶴大会(11月14・15日)開催
- ⑤ その他 廿日の市等イベントに参加し募金・PR活動実施

第4号議案 平成27年度事業会計予算

科目	金額(円)	備考
1 会費収入	103,000	入会3名、個人会員50名
2 事業収入	978,750	市内見学・市外視察会費、廿日の市ほか
3 寄付金等収入	15,000	募金、寄付金
4 雑収入	1,709	受取利息、消費税還付
当期収入合計(A)	1,098,459	(内、赤煉瓦保存基金 295)
前期繰越正味財産額	3,210,454	(内、赤煉瓦保存基金 1,064,209)
収入合計(B)	4,308,913	(内、赤煉瓦保存基金 1,064,604)

科目	金額(円)	備考
1 事業費	1,031,250	建部山砲台跡見学、奈良市視察旅行、丸山再生事業
2 管理費	470,140	旅費交通費、会報費、消耗品費ほか
3 法人税・住民税	0	
—	—	—
当期支出合計(C)	1,501,390	(内、赤煉瓦保存基金 58)
当期支出差額(A)	-402,931	(内、赤煉瓦保存基金 237)
次期繰越正味財産	2,807,523	(内、赤煉瓦保存基金 1,064,446)

第5号議案 役員改選 以下の通り、役員の変更を行い新役員が選任されました。

なお、総会は正会員数50名の内、出席者8名、委任状38名で、正会員数の3分の1を上回っているため成立しています。

新役員で今後2年間、法人設立の目的(赤煉瓦を活かしたまちづくりの推進・支援等)を達成するための活動を行いますので、会員の皆様のご支援ご協力をお願い致します。

◇平成 27-28 年度法人役員名簿

理 事：石原雅章、馬場英男、梅本徳夫、世良 孝、鷺田龍作、日向 進、吉岡博之、川崎修洋、森真理子、小野 章、隅垣とし子、  
岡本敏雄、\*嵯峨根八郎 [13名]

監 事：森口等史、\*大滝雄介 [2名] (\*印は新任、その他は留任)

◇理事長及び副理事長の選任 6月10日に新理事による理事会を開催し、定款14条の規定に基づき、理事長及び副理事長を互選し  
下記の通り選任しました。

◇理 事 長：馬場英男(留任) ◇副理事長：日向 進、梅本徳夫(留任)

**2. 平成27年度事業 見学・視察会および赤煉瓦ネットワーク舞鶴大会開催 事務局**

(1) 第4回市内赤煉瓦建造物見学会

- ①日 時：平成27年11月1日(日) 詳細は、参加者に後日お送りします。
- ②見学場所：舞鶴市下東地区 建部山保壘砲台跡 麓から登山し保壘砲台跡を見学し、山頂での昼食を予定。  
明治34(1901)年日陸軍により建造、コンクリート・煉瓦造(イギリス積)
- ③参加募集：参加費は、500円(車乗り合わせ、傷害保険含む)(昼食、飲物は各自で準備)  
募集期限は10月13日(火)限り

(2) 第5回市外近代化産業遺産視察会

- ①日 時：平成27年8月20日(木) 日帰り 舞鶴市よりマイクロバスにて
- ②視察場所：奈良国立博物館(見学・昼食)、奈良ホテル、奈良少年刑務所(外から)、依水園、薬師寺
- ③参加募集：先着26名、参加費は、会員4千円・その他5千円(昼食、車中飲物、傷害保険等含む)  
奈良国立博物館で合流希望者は、タクシー利用(会負担)となります。  
募集期限 8月10日(月)限り、定員になり次第締め切りますのでご了承ください。

※ (1),(2)の参加申込先：FAX 0773-63-9764(馬場)、メール brick@iris.eonet.ne.jp

(3) 赤煉瓦ネットワーク舞鶴大会 後日、開催内容、参加申込等お知らせします。

- ①日 時：平成27年11月14日(土)・15日(日)
- ②開催内容：14日/舞鶴赤れんがパーク2号棟 13:00受付開始、14:00~16:30 シンポジウム、17:30~懇親会(4号)  
シンポジウム講演：田原幸夫京都工芸繊維大学 KYOTO Design Lab 特任教授(東京丸の内駅舎改修)  
15日/視 察 Aコース(海上自衛隊護衛艦→東郷邸→海軍記念館→北吸沓水池→西舞鶴艦解散 14:00 予定)  
Bコース(海軍記念館→赤れんが博物館→海軍ゆかりの港めぐり遊覧船→神崎ホフマン窯→  
西舞鶴艦解散 14:00)
- ③参加費：資料代1,000円、懇親会費5,000円、見学会費3,500円(昼食代含む)

**3. 連載「舞鶴市西地区—その1」 副理事長 日向 進(会員 NO.59、京都工芸繊維大学名誉教授)**

しばらく休載しましたが、再開して西地区を歩くことにします。

舞鶴市は昭和18年(1943)に旧舞鶴市と旧東舞鶴市が合併し、昭和32年(1957)に旧加佐町を加えて現在の市域が形成されました。市域の中央に連なる山地によって市街地は大きく東西に分かれ、それぞれ生い立ちを異にしています。

西地区(旧舞鶴市)の原型である城下町・田辺かできたのは、天正8年(1580)に細川藤孝(幽斎)が築城して以来のことです。城下の西を流れる高野川沿いには、江戸時代に川港として賑わっていた名残りをみせる土蔵群が川面にその姿を映しています。一方、堀は埋め戻され、武家地はほとんど面影をとどめていません。建て替えも進み、城下町としての町並みは失われつつあります。けれど、竹屋町、丹波町、平野屋町などには、格子や虫籠(むしこ)窓をあげた商人町の面影を伝える商家が点在しています。遠見を遮断した屈折の多い道路や山裾に集まる寺や神社など、城下町時代の町割りや景観が継承されています。

東地区(旧東舞鶴市)はかつては漁村でしたが、舞鶴鎮守府の開設(明治34年)に伴い急速に発展、軍港都市として計画的な都市づくりが行われました。一方、西地区の港湾は商港としての機能を負って修築整備されることになり、海岸沿いの埋立地の造成、岸壁・護岸の整備、官設鉄道舞鶴港線の延伸などが行われました。高野川河口には軍需物資輸送のために架設(昭和19年)された可動橋があり、城下町時代以来の土蔵群と一体となって河口の景観を引き締めていました。東地区の小中学生であったころ、この橋をわたる蒸気機関車を見るための遠足(社会見学)に出かけた思い出がこっています。河川環境面での問題もあって解体されることになり、なんとか保存できないものかと文化庁の先輩に相談するなどしたのですが、平成3年(1991)に解体撤去されました。

西地区には、城下町の時代から近・現代にいたるまでのさまざまな歴史が積み重ねられ、目に見えるカタチとして身近にのこされています。次回から、それらをたずねていくことにします。



丹波町



平野屋町



高野川沿い



遠見を遮断した屈折道路・山裾に集まる寺や神社



高野川可動橋 昭和46年 小寺康正氏撮影

平成3(1991)年に解体された可動橋

#### 4. 連載「我が国の近代土木遺産6」 ～ドボクイサン重箱の隅～ こいけりか(特別会員NO87、(公財)日本交通公社勤務)

舞鶴に次いで、マンホールの蓋に铸込まれた錨のマークをお伝えした神奈川県の横須賀、戦艦大和が建造された広島県の呉、東郷平八郎も長官を務めた長崎県の佐世保は、海軍鎮守府が置かれた軍港の街だ。いずれの街も舞鶴と同様、現在も海軍が整備した水道が市の水道施設として使われている。今回は、呉軍港上水道と佐世保軍用水道の施設・設備に铸込まれた文様や文字を見ていきたい。

明治19(1886)年の海軍条例により5か所の海軍区が設定され、海軍区の軍港に鎮守府が置かれた。明治22(1889)年には佐世保、明治23(1890)年には呉で、鎮守府の開庁とともに、都市基盤整備が進められた。水道施設は、艦船に積み込む飲料水に適した良好な水質と軍港に付随する海軍工廠への工業用水としての水需要に対応可能な水量が求められていた。大型艦船が入港可能な水深と豊富で良質な水資源の確保は、軍港の適地選定で重視された項目と言われている。



画像①ダムのハンドル基部の刻印



画像②ダムの配水管の継手の刻印



画像③ダムの送水隧道の扁額

呉は、「水源を、市内を貫通する二河川に選定(明治工業史・土木編)」とあり、第一次工事の竣工後も港内の人口と出入艦船の激増で、大正12(1923)年の第三次工事まで水源施設の拡張が続いた。平成11(1999)年、水道施設で初の国指定重要文化財になった本庄貯水池(現呉市本庄ダム)は、大正5(1916)年の竣工だ。画像①のKN.W.W(Kure Naval Water Works/呉海軍水道の頭文字)と大正五年、②はKN.W.Wと大正四年と確認できる。③はダムの下部にある送水管が敷設された隧道の扁額で、両脇には「着手大正三年十月」「竣工大正五年八月」と刻まれた石板も嵌め込まれている。



画像④刻印のある制水弁蓋



画像⑤刻印のある制水弁蓋



画像⑥消化栓の刻印

佐世保は、「軍港内山腹の湧水に、水源を求めて水道の施設を行ひ(明治工業史・土木編)」とあり、日清・日露の両戦争で生じた水不足の解消のため、明治41(1908)年まで水道施設が管設された。画像④、⑤は水制弁の蓋で、④は、明治32(1899)年、佐世保初の岡本貯水池のもので、佐世保鎮守府水道水制弁の文字、⑤は、近年まで緩速濾過が行われていた明治41年の山の田浄水場のもので、水制弁の文字

と錨のマークが見られる。④、⑤とも水流の方向を示す羽根つき矢印が可愛だ。⑥は、佐世保造船補給所の煉瓦倉庫脇の消火栓で、横須賀とは異なる錨のマークが鑄込まれている。年号や管理者、設備名の表記ではあるが、愛嬌を感じるのは、後世の人間の目で見ているからなのだろうか？

## 5. 「先人の墓碑を参拝（その2）」

理事 小野 章（会員NO.9）

舞鶴市立赤レンガ博物館は、日露戦争に備えて旧海軍が作った魚形水雷車であったことから、館内には日露戦争当時の海軍に関わる展示を行っています。

青山霊園の明治期の外交・海軍関係者のお墓を探すと意外と多く見当たります。まず、東四通りに石の柵で囲まれたヘンリー・デニソンの墓、その筋向かいに小村寿太郎と島村速雄の墓があります。デニソンは、明治13年に外務省が雇い入れた米国人弁護士で、安政5年締結の不平等条約の改正、特に明治27年日英条約改正に内助があり、また日清・日露戦役の国際法理に関する外交文書作成などで外相を支えました。彼の毎年命日には外務省職員が献花を行っています。小村はご存知のとおり、米国のポーツマスで日露講和交渉を行った外務大臣です。二人の墓が向かい合って設置されているのは、偶然ではないのでしょうか。

島村は連合艦隊幹部として、日本海海戦直前バルチック艦隊の北上・迂回案を除き、対馬通過案を主張、同艦隊迎撃を実現に導きました。その北側には加藤友三郎の墓もあります。彼は、日本海海戦時の「三笠」艦橋の有名な絵の中で、連合艦隊参謀長として東郷司令長官の斜め後ろに描かれている人物です。この区域から南西にある山本権兵衛の墓はこじんまりした廟の体裁をしており、厳粛な感じはあるものの多磨霊園の入口近くにある東郷平八郎の巨大な墓碑とは対照的です。彼は、軍務局長時代に日露戦争に備えて海軍幹部の大リストラを断行、また連合艦隊司令長官に東郷中将を抜擢、日本海海戦勝利の下地を作りました。その後日露戦争を挟み8年間海軍大臣を務めました。

霊園の南中央入り口付近には、「常陸丸殉難近衛後備隊将士の墓」があります。陸軍徴用輸送船の常陸丸は、日露戦争中の明治37年6月15日玄界灘を航行中にロシアの艦隊に攻撃されるも降伏を拒み、一部を除いて1091名が船と共に沈んだ事件です。引き揚げられた遺骨がここに合葬されました。

青山霊園から離れて、品川の海晏(あん)寺を訪問すると伊藤雋吉(としよし)の墓があります。舞鶴(田辺藩)出身で大村益次郎の塾に入り、維新後に海軍に仕官、日清戦争前後長く海軍次官を務め、特に日清・日露戦争に活躍した艦艇の調達を行いました。

本やテレビなどで馴染みの人物達も、こうして彼らの墓を参拝することにより、それぞれの人物が与えられた立場で尽力し近代の日本が形成されたのだと改めて実感する次第です。



ヘンリー・デニソンの墓



島村速雄の墓



山本権兵衛の墓

## 6. その他 平成27年度会員会費納入について ほか

事務局

- 1 平成27年度会費納入について 同封の郵便振替用紙にて 8月末までに お振込みください。
- 2 訂 正 前会報92号で、「台湾の煉瓦王・後宮信太郎」理事小野章氏執筆の内、高雄市・旧台湾煉瓦(株)のホフマン窯の写真キャプション中、中華民国国定古蹟を中華民国国定古蹟に訂正いたします。
- 3 編集後記 今月18日、愛知県半田市「半田赤レンガ建物」のオープニングに招待され出席した。明治31(1898)年に丸三麦酒のビール工場として妻木頼黄実施設により建築された赤煉瓦造の建物で、東京駅、北海道庁、横浜赤レンガ倉庫に次ぐ大規模な建物である。昭和18(1943)年まで「カプトビール」が製造され、中島飛行機製作所、日本食品化工(株)と引き継がれ、平成6年頃、建物の取り壊しが噂された。そのため赤煉瓦ネットワークによる見学会および、平成7年11月の保存に向けたシンポジウムの開催を実施、半田市民および市議会が保存活用の必要性を認識し、市は用地買収を決断、以降、市長選・議会での紆余曲折を経て、このほどリニューアルにこぎつけた。保存市民団体「赤煉瓦倶楽部半田」が平成6(1994)年に結成され市との協働作業で今日を迎えた。詳細は、次回会報でお知らせします。ぜひ、お出掛けいただき見学下さい。以下に住所・連絡先を記しておきます。(b)

「半田赤レンガ建物」 愛知県半田市榎下町8番地 TEL:0569-24-7031 URL:[www.handa-akarenga.jp](http://www.handa-akarenga.jp)

会 員 資 格： 会費納入者（特別会員は除く）。入会金1,000円、年会費（個人2,000円、法人10,000円）。

なお、会員申込用紙は、ホームページからダウンロードできます。ご郵附も受け付けます。

会費・寄付金等 振込先： ゆうちょ銀行 口座番号 01010-6-21476 加入者名： 赤煉瓦倶楽部 舞鶴

